

カ如キモ之トテ在留邦人ノ共同事業ニ慣レサル爲或ハ小資本ノ事業ヲ簇生セシメ競争ノ結果成功者少ク邦人事業ノ發展案外遅々タリシヤモ知ル可カラサルナリ

第三節 「オレゴン」州及其附近ノ日本移民ニ及ホセル紳士協約ノ影響

紳士協約ニヨル移民制限カ「オレゴン」州及其附近ノ日本移民ニ及ホセル影響ニ關シ一九一一年八月十八日附小村外務大臣宛在「ボートランド」大山領事ノ報告スル所大要左ノ通

第一、序 說

日本移民ノ渡米制限カ在米日本人ノ實利ニ向ツテ多大ナル打撃ヲ與ヘ其正ニ享クヘカリシ利益ノ大部分ヲ逸セシメタルコトハ敢テ之ヲ疑フノ要ナシト雖モ而モ之ニ向ツテ明確ナル説明ヲ與フルコトハ極メテ困難ナル業ナリトス

惟フニ在北米合衆國大陸ニ於ケル日本人ノ正確ナル人口ハ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ當館其他我在米各領事館ノ調査スル處ニ依レハ一九一〇年（明治四十三年）末ニ於ケル總數ハ七萬八千百三十五人ニシテ其內譯ハ左ノ如シ

在桑港總領事館管内

五二、〇〇〇人（概算ニヨル）

在「ボートランド」領事館管内

五、六〇五人

在「シアトル」領事館管内

一五、九〇四人

在「シカゴ」領事館管内

二、三二六人

在紐育總領事館管内

二、三〇〇人（概算ニヨル）

合 計

七八、一三五人

右ノ内七割六分ハ太平洋沿岸諸州ニ在留スル者ニシテ其割合加州ニ四萬五千人（概算）「オレゴン」州ニ三千八百人華州ニ一萬二千九百七十三人ナリトス更ニ外務省ノ發表セル移民月報ニヨリ同大陸ニ於ケル日本人ノ出入ヲ檢スルニ一九〇八年（明治四十一年）一月以降一九一〇年（明治四十三年）十二月末日迄過去三ヶ年間に於ケル統計ハ左ノ如シ

年 度	渡 米 者		歸 朝 者		差引在米移民減少
	非移民	移民合計	上等船客	中下等船客合計	
一九〇八年	二、三〇四	一、五三三	三、八三六	三〇七	五、一八六
一九〇九年	一、二五四	六五九	一、九三三	二九〇	四、三四八
一九一〇年	二、〇九八	九三四	三、〇三二	二七八	四、九〇三
合 計	五、六五六	三、一〇五	八、七六一	八七五	一四、三三七

即ち過去三ヶ年間に於て日本人在留者ノ數ヲ減シタルコト約六千五百人ニシテ之ヲ在留者總數七萬八千人ニ對比スルニ約其八分五厘ニ當レリ勿論右ノ數字中ニハ所謂移民以外ノ者ヲモ混入スルヲ以テ移民ノ統計トシテハ多少正確ナラサル所アリト雖モ兎モ角我移民力年々非常ニ減少シツツアルコトハ爭フヘカラサル事實ニシテ其結果在留日本人ノ勢力ヲ減殺シ將來ニ於ケル我民族發展ノ基礎ヲ動搖セシメタルコトハ蓋シ之ヲ疑フノ餘地ナシトス然レトモ今各地方例ヘハ桑港ヲ中心トスル加州中央部又ハ當管下「ワイオーミング」州ノ如キ所ニ於テハ近年ニ至リテ著シク在留者ノ數ヲ減シタルモ他ノ或地方例ヘハ當「オレゴン」州ノ如キハ過去四年間些シタル變化ヲ見サルノミナラス羅府ヲ中心トセル南加州ノ如キニアリテハ却テ非常ニ在留者ノ數ヲ増加シ事業ノ成績頗ル誇ルニ足ルヘキモノアリ更ニ又業務ノ種類ニ就キテ之ヲ云フモ日本人ノ就業者ノ増減亦甚タ一様ナラス勞働者ニ關シテ例ヘハ鐵道工夫ノ如キハ移民制限以來年一年其數ヲ減少シ今日ヲ以テ之ヲ一九〇六年及一九〇七年中布哇ヨリ日本人移民ノ轉航盛ナリシ當時ニ比較スルニ多キハ五割少キハ三割内外ノ減員ヲ見ルニ至レルモ他ノ種類ノ勞働者ニ到リテハ必スシモ鐵道工夫ト其軌ヲ一ニセス或ハ増減ナキモノアリ或ハ著シク増加シタルモノアリ中ニハ又減少シタルモノモ甚タ尠カラスト雖モ而モ之ヲ鐵道ノ實例ニ比較スルニ其間亦極メテ大ナル差アルヲ見ルヘシ現ニ當管内ニ

於テハ鐵道以外ノ勞働者ハ之ヲ四年以前ニ比スルニ「ワイオーミング」州ニ於テハ些少ノ減少ヲ見タルモ「オレゴン」州及「アイダホ」州ニ於テハ共ニ若干ノ増加ヲ來セリ而モ勞銀ハ之ヲ數年前ニ比スルニ各地產業ノ發達ト共ニ其鐵道ニ於ケルト將又農園其他ニ於ケルトヲ間ハス一般ニ四割内外ノ騰貴ヲ示シ勞働スル者ニトリテハ極メテ有利ノ狀態ニアルヲ疑ハス若シ夫レ獨立ノ事業家ニ到リテハ各地共年一年其數ヲ増加シ嘗テ勞働者タリシモノニシテ或ハ商人トナリ或ハ農業家トナリ或ハ小作人トナリ地主トナリテ次第ニ定着的發展ノ傾向ヲ生シタルノミナラス其事業ノ範圍モ亦年々擴張セラレ當「オレゴン」州ノ如キハ今日ヲ以テ之ヲ四年以前ノ當時ニ比較スルニ其戸數竝ニ人口ニ於テ共ニ約倍額ノ増加ヲ示シ其生産力ハ詳細ナル統計ヲ得ルコト能ハスト雖モ三倍乃至四倍ノ増加ヲ爲シタルコトハ蓋シ疑ナキノ事實ナリトス

茲ニ以上ノ事實ヲ以テ直ニ我移民制限ノ結果ヲ輕視シ勞力缺乏ノ爲ニ我在米ノ事業家ヲシテ雄大ナル企業ヲ不可能ナラシメ將來ニ於ケル我民族發展ノ途ヲ阻害シツツアルコトヲ否ムモノニアラスト雖モ而モ移民制限ノ結果ヲ過算シ日本人ノ現在及將來ヲ極端ニ悲觀スルノ餘リ既ニ確立セラレタル在米日本人ノ事業力將ニ衰亡ニ近ツキツツアルカ如キコトヲ唱フルノ甚タ不可ナル所以ヲ指摘セサルヘカラス少クトモ「オレゴン」州亦東部「アイダホ」州ニ於ケル今日ノ實況ハ最モ良

ク如上ノ解釋ヲ立證スルモノニシテ徒ラニ移民制限ノ聲ノ大ナルニ驚キ大聲叱呼スルカ如キハ誤ナリト云フヘシ

然レトモ亦同時ニ甲ノ事實カ乙ノ事實ト相合シテ丙ノ結果ヲ生スル事アルヲ記憶セサルヘカラス我移民制限ノ事實ト日本人ノ在留地發達ノ事實トカ彼等ノ上ニ及ホス關係ノ如キ正ニ之カ好實例ヲ示スモノニシテ本問題ノ研究上特ニ注意スルヲ要スル所ナリトス蓋シ日本人在留者ハ我移民渡米制限ノ結果直接又ハ間接ニ有形又ハ無形ノ影響ヲ受クルコトヲ免ル能ハスト雖モ而モ亦同時ニ之等移民關係ヲ離レ自己ノ境遇ト周圍ノ狀況如何トニヨリ其生活狀態ニ多大ナル變化ヲ受クルコトヲ免ル能ハサルモノニシテ日本人在留者目下一般ノ狀態ハ實ニ右ノ二ツノ結果ノ相綜合セラレタルモノニ外ナラス

之ヲ要約スレハ日本移民ノ渡米制限ハ大體ニ於テ在米邦人ノ利益ヲ害シ其企業ニ對シ直接間接又ハ有形無形ノ損害ヲ及ホシ將來ニ於ケル日本民族發展ノ途ヲ阻止シタルコト極メテ大ナリ但シ地方ニヨリ又業務ノ種類ニヨリ其結果一ナラス間接ニハ日本人一般ニ其影響ヲ受ケツツアルモ直接ノ結果ニ到リテハ寧ロ或地方ハ或事業家又ハ勞働者ニ限レルカ如ク之ヲ全般的ノモノナリト云フヲ得ス且又一方ニ於テハ同時ニ之ト全ク異リタル他ノ有利ナル原因ノ爲日本人ノ事業及生活狀態

ニ大ナル變化ヲ來シ各地共二年々極メテ長足ノ進歩ヲ齎ラセリ

第二、管内日本人ノ實狀

一、在留邦人ノ統計

當館管内「オレゴン」「アイダホ」「ワイオーミング」州ニ於ケル在留邦人人口ハ一九一〇年（明治四十三年）末調査ニヨレハ合計五千六百五人ニシテ之ヲ其戸數男女竝ニ職業ニヨリテ區別スレハ左ノ如シ

(1) 「オレゴン」州「ポートランド」市

職業	戸數	男	女	合計
商業	一三八	一六九	九六	二六五
請負業	一	一	一	二
雜業	二九	八五	一八	一〇三
店員	一	六〇	七	六七
家内勞働	一	六〇〇	三五	六三五

(4) 「ワイオーミング」州

職業	戸數	男	女	合計
商業	三〇	三八	一二	五〇
請負業	一〇	一〇	五	一五
農業	六	一一	一	一一
店員	一	九	一	九
炭坑労働	一	三	一四	五四六
鐵山労働	一	三〇	一	三〇
鐵工所労働	一	二〇	一	二〇
家内労働	一	七三	四	七七
鐵道労働	一	八〇〇	七	八〇七
合計	四六	一、五二二	四二	一、五六四
以上總計	四九五	五、一九二	四一二	五、六〇五

即チ管内在留邦人ノ大多數ハ労働者ニシテ獨立シテ事業ヲ經營スル者ハ「オレゴン」及「アイダ

ホ」州ニ於テハ其約二割半「ワイオーミング」州ニ於テハ其約五分ニ當レリ労働者ノ主ナル者ハ鐵道工夫ニシテ在留者ノ約半數ニ當リ其他ハ家内炭坑及農園等ノ労働ニ從事セルモノナルカ所謂事業家ト稱セラルルモノト雖モ多クハ労働者上リノ者ニシテ全然労働ノ經驗ヲ有セサル者ハ蓋シ例外中ノ例外ナリトス

二、在留邦人ノ移動

今過去數年間ニ於ケル日本人狀態ノ變化ト人口ノ増減トヲ示サンカ爲左ニ一九〇七年（明治四十年）以後ニ於ケル三州ノ人口比較表ヲ掲クヘシ

(1) 「オレゴン」州「ポートランド」市

職業	一九一〇年末	一九〇九年末	一九〇八年末	一九〇七年末
商業	二六五	二三〇	二一〇	一八〇
請負業	二	二	二	二
雜業	一〇三	一〇五	一三〇	一六〇
店員	六七	五五	五四	四〇
家内労働	六三五	四七八	五三一	六三四

酌 婦

一五

一五

一三

九

小 計

一、〇八七

八八五

九四〇

一、〇三一

(2)

「オレゴン」州「ポートランド」市以外

職 業

一九一〇年末

一九〇九年末

一九〇八年末

一九〇七年末

商 業

六二

五四

五〇

三七

農 業

二三三

二二〇

一六四

七一

請 負

一

一

一

三

伐 木 業

四

四

二

五

農 業

三四八

三七三

三〇〇

二二二

伐 木 業

九七

一四〇

一一二

一六〇

製材所労働

一二六

一〇〇

一二七

一〇〇

家内労働

一四六

一二二

一〇〇

九四

鐵道労働

八一二

九九九

八九〇

一、二〇〇

雜

八二

一〇〇

一四七

一〇〇

小 計

一、九二一

二、一一三

一、八八四

一、九七二

合 計

三、〇〇八

二、九九八

二、八二四

三、〇一三

(3)

「アイダホ」州

職 業

一九一〇年末

一九〇九年末

一九〇八年末

一九〇七年末

商 業

七八

七四

五七

三九

農 業

一九八

一六四

八五

四七

請 負

二

二

三

三

店 員

七

七

九

一〇

農 業

八六

八〇

一〇〇

八〇

鐵道労働

五三三

五五〇

七〇〇

一、〇〇〇

家内労働

一三八

一一四

一二

八〇

合 計

一、〇三二

九九一

一、〇六五

一、二四九

(4) 「ワイオーミング」州

職 業	一九一〇年末	一九〇九年末	一九〇八年末	一九〇七年末
商 業	五〇	四六	二六	一〇
農 業	一一	四	四	四
請 負 業	一五	一五	一三	一三
店 員	九	七	九	九
炭 坑 勞 働	五四六	五九四	七二九	七〇〇
鐵 山 勞 働	三〇	五〇	八〇	四〇
鐵 工 所 勞 働	二〇	一	一	一
鐵 道 勞 働	八〇七	一、一三四	一、一〇〇	一、三二〇
家 内 勞 働	七七	七〇	四三	二三
合 計	一、五六四	一、九二〇	二、〇〇四	二、一一九
以 上 總 計	五、六〇四	五、九〇九	五、八九三	六、三八一

右各種勞働者ノ數ハ季節ニヨリテ同シカラス又他ノ州トノ間ニ移動甚シキヲ以テ各年末現在數ヲ

以テ他ノ季節ニ於テモ之ト同様ナルヘシト誤解セサルヲ要ス

即チ以上ノ表ニヨリテ之ヲ見レハ過去四ケ年間ニ於テ「ワイオーミング」州ハ約五百五十人「アイダホ」州ハ約二百人ノ在留者ヲ減シタルモ「オレゴン」州ニ於テハ年々多少ノ變化ハアルモ未タ些シタル増減ヲ見ルニ至ラス蓋シ之等在留者ノ減少ハ主トシテ鐵道勞働者ノ減退セルニ起因スルモノニシテ彼等ハ或ハ進テ「コロラド」「ネブラスカ」等ノ諸州ニ赴キ或ハ轉シテ「ユタ」州ニ入リ若クハ若干ノ貯金ヲ携ヘ既ニ故國ニ歸還シタルモノモアリ日本人移民制限ノ勵行ト共ニ次第ニ日本人出入者ノ平均ヲ失ヒ今日ノ結果ヲ見ルニ到リタルモノナリトス然ルニ「オレゴン」州ニ於テハ他ノ二州ト大ニ其趣ヲ異ニシ鐵道人夫ハ年一年減少シツツアルノ事實ヲ見ルモ都鄙共ニ其發達極メテ迅速ナルヲ以テ日本人勞働者ノ需要亦從ツテ大ナルノミナラス日本人勞働者ニシテ或ハ農トナリ或ハ商トナリ獨立事業ヲ經營スル者モ亦尠カラス鐵道ニ於テ失フ所ノモノハ他ノ勞働者又ハ事業家ノ増加ニヨリ補充セラルルカ如キ事實アリ本邦ヘノ歸還者ニ到リテハ他ノ諸州ニ於ケルト其割合異ナルコトナシト雖モ而モ近來加州又ハ華州在留日本人中「オレゴン」州ノ有望ナルコトヲ知り或ハ勞働或ハ企業ノ目的ヲ以テ同州内ニ轉入シ來ル者尠カラス又本邦ヨリ若干ノ妻子呼寄等アリ結局在留日本人ノ平均ヲ保ツコトヲ得ルニ外ナラストス但シ「アイダホ」州ノ東部

「シュガー・シティ」「アイダホ・フォールス」地方ヲ中心トスル鐵道線路附近ノ地ニ於テハ日本人中農業ニ従事スル者極メテ多ク之ヲ數年前ニ比スルニ定住者ノ數年一年ニ激増シ其人口亦年々ニ増加セリ

一九〇七年（明治四十年）以後右三州内ニ於ケル日本人事業家及労働者ノ増減ハ前表ニヨリ之ヲ知ルコトヲ得ヘシト雖モ更ニ一層簡明ナラシメンカ爲之ヲ收縮シテ左ニ示スヘシ

(5) 日本人事業家戸數及人口表

州 別	摘 要	一九〇年末	一九〇九年末	一九〇八年末	一九〇七年末	備 考
州「オレゴン」	戸數	三一	二八一	二三四	一九五	人口ハ共 同者及家 族ヲ含ム
	人口	六〇四	五四六	四五五	三一九	
州「アイダホ」	戸數	一七九	一四〇	七〇	四一	
	人口	二七八	二四〇	一四五	八九	
州「ワイオミ ング」州	戸數	四六	四〇	三〇	二〇	
	人口	七六	六五	四三	二七	
三州戸數合計		五三六	四六一	三三四	二五六	

(6) 日本人労働者人口表

三州人口合計		一、一二四	八五一	六四三	四三五
州 別	労働種類	一九〇年末	一九〇九年末	一九〇八年末	一九〇七年末
州「オレゴン」	鐵道労働	八一	九九九	八九〇	一、二〇〇
	其他労働	一、五九二	一、四五三	一、四七九	一、四九三
	合 計	二、四〇四	三、四五二	三、三六九	二、六九三
	鐵道労働	五三三	五五〇	七〇〇	一、〇〇〇
州「アイダホ」	其他労働	二二	二〇一	二二〇	一六〇
	合 計	七五四	七五一	九二〇	一、一六〇
	鐵道労働	八〇七	一、一三四	一、一〇〇	一、三二〇
	其他労働	六八二	七二一	八六一	七七〇
州「ワイオミ ング」州	合 計	一、四八九	一、八五五	一、九六一	二、〇九〇
	鐵道労働	二、一五二	二、六八三	二、六九〇	三、五二〇
	其他労働	二、一五二	二、六八三	二、六九〇	三、五二〇
	合 計	二、一五二	二、六八三	二、六九〇	三、五二〇

三州其他勞働合計	二、四九五	二、三七五	二、五六〇	二、四二三
三州總計	四、六四七	五、〇五八	五、二五〇	五、九四五

右表ニ依リテ之ヲ見ルニ右三州共在留邦人ノ大多數ハ勞働者ナルコトハ敢テ多辯ヲ要セサルモ而モ獨立シテ自ラ事業ヲ營ム者ノ數年々増加シツツアルコトハ吾人ノ最モ注意スヘキ所ナリトス但シ「ワイオーミング」州ハ各地共産業極メテ幼稚ニシテ日本人ノ事業地トシテハ前途甚タ有望ナラス「アイダホ」州西部モ亦殆ト之ト相類似シ近キ將來ニ於テ日本人ノ發展ヲ見ルコト困難ナルヘシト雖モ「シュガー・シティー」「アイダホ・フォールス」ヲ中心トスル同州東部ニ於テハ日本人ノ定住農夫ノ年一年ニ増加シ前途甚タ有望ナリト稱セラル更ニ「オレゴン」州ニ到リテハ其發達極メテ近年ノコトナルモ各地産業ノ進歩著シク農園ニ於ケル日本人ノ發展亦從テ見ルヘキモノ多ク定住農夫ノ數年々非常ニ増加セリ若シ夫レ勞働者ニ到リテハ年ト共ニ次第ニ減少シ一見心許ナキ感ナキニ非サルモ仔細ニ之ヲ點檢スレハ斯ノ如キ勞働者ノ減退ハ主トシテ鐵道工夫ノ輩ニシテ「ワイオーミング」州ニ於テ炭坑夫カ多少減少シタル外他ノ勞働者ハ總テ些少乍ラ年々増加シツツアルノ事實ヲ見ルコトヲ得ヘシ次ニ各州在留者ヲ男女ニヨリテ區別シ過去四ケ年間ニ於ケル増減ノ模様ヲ示セハ左ノ如シ

州別	男女別	一九一〇年末	一九〇九年末	一九〇八年末	一九〇七年末
「オレゴン」州	男	二、七〇一	二、七三二	二、六一六	二、八二九
	女	三〇七	二六六	二〇八	一八四
	合計	三、〇〇八	二、九九八	二、八二四	三、〇一三
	合計	九六九	九三一	一、〇一四	一、二二〇
「アイダホ」州	男	一、〇三二	九九一	一、〇六五	一、二四九
	女	六三	六〇	五一	二九
	合計	一、〇九五	一、〇五二	一、一一六	一、二七八
	合計	一、五二二	一、八八五	一、九七一	二、一〇六
「ワイオーミング」州	男	一、五二二	一、八八五	一、九七一	二、一〇六
	女	四二	三五	三三	一三
	合計	一、五六四	一、九二〇	二、〇〇四	二、一一九
	合計	五、一九二	五、五四八	五、六〇一	六、一五五
三州男合計		五、一九二	五、五四八	五、六〇一	六、一五五
三州女合計		四一二	三六一	二九二	二二六
三州總計		五、六〇四	五、九〇九	五、八九三	六、三八一

即チ婦人増加ノ割合ハ各州同シカラサルモ四年以前ニ比シ大略倍數ノ増加ヲ爲シタルモノニシテ

夫丈ケ在留者カ次第ニ定着的傾向ヲ生シツツアルコトヲ示スモノナリ但シ之等ノ婦人ハ事業家ノ家族ト將又勞働者ノ婦タルトニ論ナク多クハ相當ノ勞役ニ從事スルモノニシテ勞働問題ノ上ヨリハ之ヲ一ノ勞働者トシテ計算シ置クヲ至當ナリトス

左ニ日本人ノ農園ニ於ケル發展ノ程度ヲ示サンカ爲三州内ニ於ケル其耕作反別ヲ示スヘシ

地 方 別	所有地	現金借地	收穫分 配借地	勞力供 給請負	合 計	
「オレゴン」州「ボ ートランド」附近	一五四	一、七六八	—	—	一、九三三	一九一一年 六月末日調
「フリード・リバ ー」	六七	五〇	—	—	六七	同
「ダールス」	八四二	一九八	三〇	—	一、〇六九	同
「ラグランンド」	—	一五	—	二、〇〇〇	二、〇一五	同
其 他	三三五	五八	—	—	三八三	同
合 計	一、九四七	二、〇八九	三〇	二、〇〇〇	六、〇六六	
「アイダホ」州「シュ ガ・シテイ」附近	—	二、〇〇五	一、九三四	二〇	三、九四九	一九一〇年 九月末日調
「アイダホ・フォー ルス」及附近	—	二、一〇五	九四五	八六七	三、九一七	同

「ブラック・フート」 及附近	六六〇	二五	一、二五〇	一、九五五	同
「ビュール」附近	一、四〇二	—	—	一、四〇二	同
其 他	二六二	—	五	二六七	同
合 計	六、四三四	二、八九四	二、二四三	二、二七〇	同
「ワイオーミング」 州	二五	二七四	八〇	—	三七九
總 計	一、九七三	八、七九七	三、〇〇四	四、二四二	一七、九一五

次ニ三州ニ於ケル日本人ノ商店ニ於テ毎月支拂フ家賃高ハ以テ日本人ノ商業上ニ於ケル勢力ノ一般ヲ推知スルニ足ルモノナルヲ以テ左ニ其概數ヲ示スヘシ（一九一〇年末調）

一九一〇年
九月末日調

地 方 別	一ヶ月家賃高概算
「オレゴン」州	三、五一五
「ポートランド」市	一、五二〇
「ポートランド」市以外	一、六三八
「アイダホ」州	一、二二五
「ワイオーミング」州	—

之ヲ要スルニ當館内日本人ノ状態ハ鐵道勞働者ノ減少シタル外ハ概シテ年々發達ノ跡ヲ示シ其所

謂事業家ト稱セラルル者ノ基礎未タ強固ナリト云フ能ハサルモ而モ鐵道勞働者ハ次第ニ轉シテ他ノ有利ナル勞働ニ就キ更ニ又農トナリ商トナリ其前途大イニ望ヲ囑スルニ足ルヘキモノアリ

第三、移民制限ノ直接ノ影響

日本人移民ノ渡米制限ノ影響ハ地方ニ依リ又業務ノ種類ニヨリ大小厚薄アルノミナラス其結果ノ有形ナルモノアリ無形ナルモノアリ又直接ナルモノアリ間接ナルモノアリ其種類千差萬別ニシテ枚舉ニ遑アラスト雖モ其打撃ノ最モ直接ニシテ且ツ最モ大ナルモノハ多數勞働者ヲ使役スル一部ノ事業家ニシテ殊ニ新來ノ移民ヲ多ク使用シツツアリタル鐵道人夫請負業者ヲ以テ其最モ甚シキ者トナス而モ他ノ一般ノ事業家ニ到リテハ地方及業務ノ種類ニヨリ差異アルコト勿論ナルモ要スルニ當國ノ如キ勞力ノ缺乏セル地ニ於テ日本人勞力ノ自由供給ヲ妨ケラレタルハ蓋シ事業上ノ一大打撃ナリト云ハサルヘカラス而シテ之ヲ勞働者ノ側ヨリ云フ時ハ之等移民制限ハ其實無限ナル同業者ノ自由競争ヲ制限スルモノニシテ事業家ノ困難セルニ反シ自ラ豫期セサル特殊ノ利益ヲ享受セリ便宜上左ノ數項ニ分チテ説明スヘシ

一、鐵道工夫請負業

日本人移民渡米制限ノ爲ニ最モ大ナル打撃ヲ受ケタルモノハ日本人鐵道工夫請負業者ナルコト前述ノ通ナリ蓋シ各鐵道工事ニ從事スル日本人勞働者ハ總テ之等請負業者ノ手ニヨリテ供給竝ニ監督セラルル者ニシテ一九〇六年（明治三十九年）一九〇七年（明治四十年）始頃迄ハ「オレゴン」「アイダホ」「ワイオミング」三州ヲ通シテ少クモ四千人内外アリタルモ一九一〇年（明治四十三年）末ノ調査ニヨレハ其數半減シテ漸ク二千一百人内外トナルニ到レリ勿論之等勞働者ノ増減ハ主トシテ周圍ノ經濟的關係ニヨリテ支配セラレ必スシモ我渡米制限ノミニヨルモノニアラス現ニ「オレゴン」州ニ於テハ一九一一年六月ヲ以テ其前年ノ當時ニ比較スルニ一九一一年ハ各地共稍々不景氣ナルカ爲農園其他ニ於ケル勞働者ノ需要幾分減退ヲ來シ全線路ヲ通シ約一割乃至二割ノ増員ヲ見ルカ如キ事實アリ蓋シ鐵道勞働ハ賃銀ノ最低標準ヲ示スモノニシテ四季其仕事ノ間斷ナキ代リニ他ノ勞働ニ比シテ賃銀遙ニ安キヲ以テ勞働者ノ多クハ鐵道線路ニ就働中地方ノ事情ニ通スルニ從ヒ漸次ニ他ノ有利ナル業務ヲ求メ永ク鐵道ニ從事スルコトヲ好マサルヲ以テ一般勞働界カ特ニ不況ナル場合ノ外ハ常ニ新陳代謝スルコトヲ例トシ勞働者ノ供給力無限ニアサル限リ人夫ノ補充ヲ得ルコト誠ニ容易ナラス左レハ請負業者ハ從來人夫ノ供給ヲ新來ノ移民ニ求メ布哇ヨリノ日本移民ノ轉航最モ盛ナリシ頃ニハ競ヒテ之ヲ鐵道ニ供給シ以テ必要ナル勞働者ノ數ヲ補充スルコトヲ得タルモ我渡米者制限以來一時ニ勞力供給ノ途ヲ杜絶セラレ事業ノ經營年一年

困難ヲ極メ居レリ今管内各鐵道請負人及過去四ケ年間請負人配下日本鐵道工夫數ノ増減ヲ示セハ左ノ如シ

州 名	請負業者	鐵 道 會 社	一九一〇 年末	一九〇九 年末	一九〇八 年末	一九〇七 年末
「オレゴン」州	件 事 務 所	「オレゴン」鐵道航空會社 「サウザン・パシフィック」 會社	八二	九九	八〇	一、一〇〇
「アイダホ」州	「ボカテロ」日本人 工務局	「オレゴン・ショート・ライ ン」鐵道會社	五三	五〇	七〇	一、〇〇〇
「ワイオミング」 州	西村 工務局 脇本 工務局	「ユニオン・パシフィック」 鐵道會社	五七	七四	六〇	八〇〇
同	件 事 務 所 「セリダン」出張所	「シカゴ・バークリントン・ク インシイ」鐵道會社	二五〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
同	「ボカテロ」日本人 工務局	「オレゴン・ショート・ライ ン」鐵道會社	五〇	六〇	六〇	一〇〇
合 計			二、二五三	二、六六三	二、六六〇	三、一五〇

以上ニ於テ日本人ノ渡米制限カ鐵道請負業者ニ對シ如何ニ大ナル損害ヲ與ヘタルヤニ付略其要領ヲ記シタリ人或ハ鐵道勞働ヲ以テ甚タ好マシカラサルモノトナシ日本人ノ前途ノ爲ニ斯ノ如キ勞働者ノ廢滅ニ近ツキツアルコトヲ喜フモノナキニアラサルヘシト雖モ而モ斯ノ如キハ寧ロ在米日本人發展ノ歴史ヲ知ラサルノ罪ニシテ本問題ノ研究上吾人ノ特ニ注意ヲ要スヘキ所ナリトス蓋

シ鐵道勞働ハ日本人内地侵入ノ媒介ヲ爲シタルモノニシテ現今當國內地ニ於テ廣ク日本人ヲ見ルニ到リタルハ主トシテ之ヲ鐵道勞働ノ功ニ歸セサルヘカラス思フニ最初日本人ノ鐵道ニ勞働スルニ到リタルハ一八九二年（明治二十五年）九月目下當「オレゴン」州「ボートランド」市在住伴新三郎カ「オレゴン・ショート・ライン」鐵道會社ヲシテ「オレゴン」及「アイダホ」州ノ國境「ハンチントン」附近ニ於テ日本人勞働者二十人ヲ試用セシメ其結果意外ニ良好ナリシ爲續テ五十名ノ日本人ヲ就働セシメタルニ在ルモノニシテ爾來年一年ニ其數ヲ増加シ加州「オレゴン」州華州其他「ロッキー」山以西ノ諸州ハ勿論東ノ方「オマハ」及「キャンサス」市ヲ境トシ「コロラド」「キャンサス」「ネブラスカ」諸州ニ到ル迄米國西部地方一帯ノ地ニ於テ到ル處日本人ノ鐵道勞働者ヲ見ルニ到レリ蓋シ之等勞働者ノ鐵道會社ニ使用セラルルヤ會社ノ使用人トシテ目的地迄無賃乗車ノ特權ヲ與ヘラレ自然ニ内地ニ侵入ノ機會ヲ得タルモノニシテ彼等ノ鐵道ニ就働スルヤ地方ノ事情ニ通スルニ從ヒ或ハ出テ市街ノ勞働ニ從事シ或ハ去テ農園ニ働キ其閑散ナル時ニ當リテハ再ヒ來リテ鐵道ニ復歸スル者モ亦尠カラス斯ノ如クニシテ彼等ハ又資本ト經驗トヲ得ルニ從ヒ獨立シテ或ハ農トナリ或ハ商トナリ所謂内地ノ事業家ナル者ヲ生スルニ至リタルモノニシテ鐵道ハ農園主其他ノ事業家ニ對シテハ必要ノ時ニ臨ミ自由ニ勞力ヲ得ルノ途ヲ開キ勞働者等ニ對シテ

ハ廣ク勞力需要ノ途ヲ開キ更ニ又市街又ハ農園ニ發展スルノ機會ヲ與ヘ鐵道ヲ中心トシテ自然ニ植民の勢力ヲ形成スルニ至レリ惟フニ請負業者カ移民渡米制限ノ爲ニ蒙レル損害ハ極メテ大ナルモノナリシニ相違ナシト雖モ而モ日本人ノ内地發展ノ機會カ之ニヨリテ妨ケラレタルコトハ日本人ノ前途ニトリテ更ニ大ナル損害ナリト云ハサルヘカラス

二、農園勞働者請負業

鐵道人夫請負業者ト共ニ移民制限ノ爲ニ最モ大ナル打撃ヲ受ケタルモノハ多數ノ人夫ヲ要スル大農業家竝ニ農園及其他ノ勞働者請負業者ナリトス當管内ニ於テ此種ノ事業ニ從事セル主ナル者ハ「シュガー・シティー」「アイダホ・フォールス」「ブラック・フート」ヲ中心トセル東部「アイダホ」州ヲ根據トセル日米勸業社一派ノモノニシテ同社ハ一方ニ於テ「ネヴァダ」州「スバークス」ヨリ「ユタ」州「オグデン」ニ到ル「サウザン・パシフィック」鐵道會社ニ人夫ノ供給ヲ請負ヒ他方ニ於テ「ユタ」州「ガーランド」地方及「アイダホ」州前記諸地方ニ於テ「ユタ・エンド・アイダホ」砂糖會社ノ甜菜耕地ニ於テ勞働者ノ供給又ハ耕作ヲ行ヒ必要ノ時機ニ於テ所要勞働者ヲ其配下ノ鐵道又ハ「ワイオーミング」及「アイダホ」州ニ於ケル各鐵道工夫ニ求メ來リシモ日本人渡米移民ノ制限ト共ニ日本人鐵道勞働者ノ減少ヲ來シ農園勞働者ノ供給亦從ツテ困難トナレリ然レトモ

之ヲ以テ鐵道人夫ノ募集ニ比スルニ其難易素ヨリ同一ノ論ニアラス蓋シ鐵道ノ勞働ハ賃銀ノ最低標準ヲ示スモノナルニ反シ甜菜耕作勞働ハ各自ノ勤勉如何ニヨリ他ノ總テノ勞働ニ比シ最モ高率賃銀ヲ得ヘキ利益アルヲ以テ勞働者ハ通常喜ンテ其募集ニ應スルカ如シ唯「アイダホ」州ハ産業發達ノ程度極メテ幼稚ナルヲ以テ甜菜耕作期ノ外勞働者ヲシテ常ニ足ヲ止メシムルニ足ルヘキ定職少ク州内ノ鐵道勞働ヲ退去セル者ハ大抵他州ニ定住ヲ求ムルヲ常トセルヲ以テ必要ノ時機ニ際シ所要ノ人員ヲ求ムルカ爲ニハ勢ヒ遠隔ノ地方ニ於テ之ヲ募集スルノ外ナシ之一面ニ於テ募集費ノ増加ヲ意味スルモノニシテ此募集費ノ増加ハ結局其原因ヲ鐵道人夫減少ノ源タル移民制限ノ上ニ歸セサルヘカラス然レトモ茲ニ吾人ノ注意ヲ要スルモノ一アリ他ナシ之等日本人勞働者ノ缺乏ノ事實ハ同時ニ日本人ノ事業ノ衰頹ヲ意味スルモノニアラサルコト即チ之ナリ何トナレハ曩ニ屢々述ヘタルカ如ク一般勞働者ノ大勢ハ次第ニ鐵道勞働ノ如キ賃銀ノ安キ勞働ヲ離レテ有利ナル他ノ職業ニ就キ更ニ之等勞働者ヨリ進テ獨立ノ事業家トナルノ傾向ヲ有スルモノニシテ現ニ右日米勸業社配下ノ勞働者ノ如キ農園ノ經驗ヲ積ムニ從ヒ漸次同社ノ手ヲ離レ自ラ土地ヲ借入レ或ハ甜菜或ハ小麥若クハ野菜等ノ耕作ニ從事スルニ到リ今日ニ於テハ「シュガー・シティー」「アイダホ・フォールス」ノミニテ百軒以上ノ農家ヲ見ルニ到レリ斯ノ如クニシテ日本人移民渡米ノ減少ト獨

立農夫ノ増加トハ勸業社ヲシテ從來ノ方法ヲ以テシテハ其業務ヲ繼續スルコト能ハサラシムルニ到リシヲ以テ同社ハ曩ニ其組織ヲ一變シ砂糖會社ヨリ一定ノ手當ヲ受ケ主トシテ同社耕地内ニ獨立農夫ヲ誘導シ且之カ監督ノ任ニ當ルコトナリ所謂人夫請負會社トシテ殆ト其成立ヲ見ルコト能ハサルニ到リタリ思フニ勸業社ノ經營困難ナルニ到リタル第一動機ハ日本人移民ノ渡米制限ニアルコト勿論ナルモ同時ニ又獨立農夫ノ増殖シタルコトモ亦其大原因ノ一ニシテ假令移民ノ制限今日ノ如クナルコトナシト雖モ早晩今日ノ運命ニ逢着スルコトアルヘキハ蓋シ想像スルニ難カラストス

三、炭坑夫請負業

當國ニ於ケル日本人ノ炭坑勞働ハ「コロラド」「ニュー・メキシコ」及「ワイオーミング」ノ三州ニ限ラレ其總數約八百乃至九百人内外ニシテ其半數以上ハ「ワイオーミング」州ニ於ケル諸炭坑ニ就働スルモノナリトス蓋シ同州ニ於テハ之等日本人坑夫ハ一九〇七年(明治四十年)同州炭坑夫同盟ニ加入シ一般米國人ノ同盟員ト同一ノ待遇ヲ受ケ八時間勞働ニテ一日普通三弗二十五仙ノ日給ヲ受ケ他ノ職業ニ比較シ勞働ノ困難ト其萬人向ナラサルトノ缺點アルモ而モ一ケ年間之ニ從事スルモノ尠カラス之賃銀ノ安キ鐵道勞働ト異ル所以ニシテ勞働者ノ供給充分ナラサル今日ニ於テ請

負業者ノ困難ハ之ヲ想像スルニ難カラスト雖モ而モ之ヲ鐵道工夫請負業者ニ比スルニ其經營ノ難易亦同日ノ論ニアラス然レトモ右ハ移民制限ノ直接ノ結果ニ就キ之ヲ謂フモノニシテ間接ナル種々ノ損害ニ到リテハ他業ニ比シ敢テ輕重アルコトナシ今一九〇七年以後「ワイオーミング」州炭坑ニ於ケル日本人勞働者ノ増減ヲ示セハ左ノ如シ

一九一〇年末	一九〇九年末	一九〇八年末	一九〇七年末	備考
五四六	五九四	七二九	七〇〇	炭坑七ヶ所請負人(表面ハ監督又ハ通譯)七人

但シ一九一〇年ノ分ハ北方炭坑夫調査漏約三十名位アルヘシ

四、農 業 家

一般農業家カ他ノ事業ト共ニ勞力缺乏ノ爲ニ困難ヲ感スルコトハ之ヲ想像スルニ難カラス若シ夫レ困難ノ程度如何ニ到リテハ事業ノ種類ト大小トニヨリテ同シカラサルモノナレハ一概ニ之ヲ論スルコトヲ得ス當管内ニ於テハ日本人農業家ハ極メテ少數ノ外ハ總テ近年ノ起業ニ係リ其基礎未タ強固ナラス多クハ所謂勞働本位ノ小農夫ノミニシテ主人竝ニ其家族及共同者等自ラ主トシテ勞働ヲ爲スモノナリト雖モ繁忙ノ季節ニ當リテハ少數補助員ノ必要ナキニアラス從ツテ勞力ノ需要ハ大農業家ノ夫ノ如ク大ナラスト雖モ而モ我移民渡米制限ノ爲ニ自由ニ勞働者ヲ得ル能ハサルノ

不便ハ是ヲ無視スルコトヲ得ス茲ニ本問題ニ關シ吾人ノ注意ヲ要スルモノ一アリ他ナシ日本人労働者中獨立シテ農業ヲ營ム者年々其數ヲ増加セルコト即チ之ナリ例ヘハ一九〇七年(明治四十年)末ニハ農夫ノ數「オレゴン」州ニ於テハ七十一人「アイダホ」州ニハ四十七人ナリシモノ一九一〇年末ニハ前者ハ二百三十三人後者ハ百九十八人トナリ尙今後モ續々類似ノ獨立事業家ノ増加ヲ見ントスルカ如キ模様アリ之一面ニ於テ日本労働者ニ對スル日本人側ノ需要ノ増加セルヲ意味スルモノニシテ需要ノ増加ハ畢竟供給ノ減退ト同一結果ノモノナレハ事實上之ヲ日本人勞力ノ減退ナリト云ハサルヘカラス然レトモ實際上日本人事業家ハ米國人事業家ニ比シ日本人労働者ヲ得ルコト割合ニ容易ナルヲ以テ日本人ノ勞力供給減退ノ爲ニ直接犠牲トナルモノハ日本人農業家ヨリモ寧ロ米國人農業家ナリト云ハサルヘカラス況ンヤ當管内ニ於テハ日本人農家ハ多クハ自己労働ヲ本位トセル小事業家ナルノミナラス現ニ彼等ノ事業地タル「オレゴン」及東部「アイダホ」州ニ於テハ日本人ノ農園労働者ハ今日ヲ以テ之ヲ數年前ニ比スルニ少數乍ラ幾分其數ヲ増加セルノ事實アリ旁日本人ノ渡米制限ハ日本人ノ農業家ニ對シ未タ世人ノ想像セルカ如ク大ナル打撃ヲ與ヘタルモノニアラサルモノナリト云ハサルヘカラス然レトモ右ハ今日迄顯レタル日本人渡米制限ノ直接ノ影響ヲ示セルモノニシテ日本人労働者ノ自由供給制限ノ爲我一般事業家ノ今後次第ニ蒙ルヘキ

間接ノ損害ニ到リテハ世間ノ論者ト共ニ其極メテ大ナルヘキヲ疑ハス

今一九〇七年ヨリ一九一〇年迄ニ於ケル當管内農業家ノ人口増減ヲ示セハ左ノ如シ

州	別	一九一〇年	一九〇九年	一九〇八年	一九〇七年
「オレゴン」州	「アイダホ」州	二二二	二二〇	一六四	七一
	「ワイオーミング」州	一九八	一六四	八五	四七
合	計	四四二	三八八	二五三	一二二

五、商 業

米國太平洋岸ニ於ケル日本人ノ營ム商業ニ二種アリ一ハ洋食店洗濯業美術雜貨店等ノ如キ米國人ヲ顧客トスルモノ他ハ日本飲食店食料雜貨店等ノ如キ日本人ヲ目的トスルモノニシテ其第一ニ屬スルモノハ在留日本人ノ増減ト些シタル關係ナシト雖モ第二ノモノニ到リテハ之ト最モ直接ナル關係ヲ有シ移民制限ノ爲ニ之等商人ノ失フ所極メテ大ナリ當管内中「ワイオーミング」州及西部「アイダホ」州ニ於テハ日本人ノ鐵道労働者ノ減少ト共ニ漸次州内日本人人口ノ減少ヲ來シ爲ニ日本人向商人ノ失フ所極メテ大ナルモ「オレゴン」及東部「アイダホ」州ニ於テハ之ト大ニ事情

ヲ異ニシ鐵道ニ於テ失ハレタル人口ハ同時ニ他ノ職業ニ於テ増加セラレ差引同地方ノ人口ニ些シタル變化ナク移民制限ノ爲ニ享クヘカリシ利益ノ大部分ヲ逸セシメタルコトハ想像スルニ難カラサルモ之等ハ寧ロ間接ノ損害ニシテ直接ニハ特ニ大ナル損害ヲ受ケタリト云フコトヲ得ス況ンヤ在留者一般ノ財力ノ増進ト嗜好ノ向上トハ次第ニ日本人向商業ノ繁榮ヲ促シ今日ヲ以テ之ヲ數年前ニ比較スルニ其取引高ノ増加ハ倍加シタルノミニ止ラスト云ヘリ但シ鐵道勞働者ヲ主ナル顧客トセル食料竝ニ雜貨商ニアリテハ同勞働者ノ減少ニヨリテ失フ所甚タ渺カラス而シテ之等商人ハ同時ニ右勞働者請負人ナルヲ以テ彼等ハ移民制限ノ爲ニ正ニ二重ノ損害ヲ受ケタルモノナリ

六、勞働者

日本人渡米者ノ減少ハ其實日本人勞力供給ノ減少ヲ意味スルモノニシテ事業家ニトリテハ一大打撃タルニ相違ナシト雖モ在米ノ日本人勞働者ニトリテハ極メテ有利ノ現象ナリト云ハサルヘカラス然レトモ勞銀ノ騰貴ト對米移民制限トノ關係ヲ論スルニ當リテハ勞働ノ種類及地方ノ狀況如何ニヨリテ其結果ニ大ナル差違アルコトヲ知ラサルヘカラス今移民制限前ニ於ケル勞銀ヲ以テ之ヲ今日ニ比較スルニ少キハ二割多キハ五割乃至六割ノ騰貴ヲ示シタリト雖モ而モ之ヲ以テ直チニ移民制限ノ結果ナリト見做スヘカラス吾人ノ見ル所ニヨレハ日本人ノ渡米制限ト最モ密接ノ關係ヲ

有スルモノハ鐵道勞働ニシテ「オレゴン」州ニ於テハ其勞銀一八九七年（明治三十年）頃迄日給一弗十仙内外ナリシモノ今日ニテハ約一弗五十仙ニ増加セリ而シテ其原因ハ素ヨリ種々アルヘキモ而モ其主タル原因ハ之ヲ日本人渡米制限ニ歸セサルヘカラス蓋シ從來日本人鐵道工夫ハ主ニ新來ノ無經驗者ニトリ日本人ノ勞働者トシテ其最モ劣等ナルモノニ屬シ其供給亦可成潤澤ナリシヲ以テ使用人タル鐵道會社ハ其偉大ナル勢力ヲ賴ミ日本人ノ弱點ニ乘シ極メテ低廉ナル賃銀ヲ以テ之ヲ束縛シ容易ニ之カ増額ヲ許サス加フルニ之等勞働者請負人ハ各就働者ヨリ一人ニ付若干ノ割合ヲ以テ一定ノ手数料又ハ事務所費ヲ徴收シ來リシヲ以テ勞銀ノ多少ハ直チニ其利害ニ關係ヲ及ホスモノニアラスト爲シ勞銀ノ増加ニ對シ痛切ナル運動ヲ試ムルノ熱心ヲ有セス從ツテ勞銀ハ常ニ極度ノ少額ニ止メラレタルノ感アルモ日本人勞働者ノ渡米制限以來從來ノ如キ低廉ナル賃銀ヲ以テシテハ到底必要ナル勞働者ヲ得ルコト能ハサルニ到レルノミナラス從來使用ノ勞働者中他ノ有利ナル事業ニ轉スルモノ次第ニ多ク勞銀ノ低廉ナルコトハ到底必要ナル勞働者ヲ得ルノ途ニアラサルコトトナリ勞銀ノ多少ハ最モ痛切ナル關係ヲ有スルニ到リタルヲ以テ彼等ハ自己ノ防衛上鐵道會社ニ向ツテ頻リニ勞銀ノ増額ヲ迫ルト共ニ會社モ亦克ク其實狀ヲ解スルニ到リ結局今日ノ如キ勞銀ノ騰貴ヲ見ルニ到レリ然レトモ他ノ勞働者ニ到リテハ即チ然ラス雇フ者モ雇ハル者モ

皆之個人ト個人トノ對抗ニシテ勞銀ハ大體勞働者ノ需要供給關係ト其勞働工程ニヨリテ支配セラレ雇主ノ特殊ノ勢力ヲ以テ殊更ニ之ヲ低下セシメタルカ如キコトアルニアラス從ツテ日本人移民渡米制限ノ如キハ勞銀騰貴ノ一因タルニハ相違ナキモ而モ鐵道ノ夫ノ如ク異例ノ大影響ヲ與ヘタルモノナリトハ云ヒ難シ然ラハ過去三四ケ年間ニ於ケル一般勞銀ノ騰貴ハ如何ニシテ之ヲ説明スヘキヤ他ナシ當國各地產業ノ發達ニ伴フ經濟上自然ノ結果ニ出テタルモノニシテ之ヲ勞力ノ減少セルニ依ルモノナリト云フヲ至當ナリトス勿論過去三ケ年間ニ於テ日本人ノ勞働者カ約六千五百人減少シタリトセハ夫タケ當國ニ於ケル勞力ノ供給ヲ減シ勞銀ノ騰貴ヲ促スニ至ルヘキハ理ニ於テ免ルコト能ハスト雖モ而モ當國西部各州ニ共通セル經濟問題トシテ之ヲ云フ時ハ六千五百人ノ勞力ハ些シテ大ナルモノニ非サルノミナラス之等勞働者カ過去三ケ年間ノ長時日ヲ通シ漸次ニ減退シタルモノナルヲ見ルトキ當國ノ經濟上我移民ノ減退ヲ餘リニ重大視スルノ非ナルコト明ナリ況ンヤ一般賃銀ノ騰貴ハ主ニ移民ノ渡米最モ盛ナリシ一九〇六年ヨリ一九〇七年ニ互リテ實現セラレタルモノニシテ布哇移民轉航禁止ハ一九〇七年二月以降日本ヨリノ移民渡米制限ハ一九〇八年以後ニ屬スルノミナラス前ニ比スルニ未タ些シタル變化ヲ見ルニ到ラス而モ其賃銀ハ日本人人口ノ最モ減退セル中央加州ニ比シ却ツテ高額ナル事實アリ一般論者カ移民問題ヲ論スルニ當リ

日本人ノ賃銀ハ或特殊ノ例外ノ場合ノ外ハ斷シテ日本人勞働者ノ數ニヨリテ高低セラルルモノニアラスシテ一般經濟上ノ原則ニ從ヒ其他一般ノ勞働狀況如何ニヨリテ決定セラルルモノナルコトヲ注意セサルヘカラス徒ニ移民制限ノ聲ノ大ナルニ驚キ日本人在留者カ米國到ル處ニ於テ一時ニ非常ニ減少シタリト妄斷シ之ニヨリテ總テノ問題ヲ解決セントスルハ事實ニ即セサルノ論ナリトス

第四、移民制限ノ間接ノ影響

當管内ニ於ケル日本人移民渡米制限ノ直接ノ影響ハ未タ一般ニ想像セラルル如ク大ナルモノニ非サルコトハ前述ノ通ナルカ其間接ノ影響ニ到リテハ極メテ大ナルモノニシテ地方ニヨリテ多少ノ相違ハアルヘキモ要スルニ日本人ニトリテ大損害ヲ與ヘタルモノタルヤ論ヲ待タス蓋シ當國西部諸州ハ到處廣漠タル平野多ク土地極メテ豐饒ナリト雖モ人口稀薄ニシテ勞力ノ供給ハ以テ企業ノ盛大ナルニ應スルコト能ハス勞銀ハ時ニ高低アルコト勿論ナリト雖モ概シテ年々騰貴ノ一方ニ傾キ被傭人ニトリテハ無上ノ勞働地ナルノミナラス更ニ或ハ農トナリ或ハ商トナリ獨立ノ事業ヲ經營スルコトモ亦極メテ容易ナリ左レハ之等ノ地方ハ勞働ニヨリテ身ヲ立テントスル者ニアリテハ誠ニ好機會ニ富ムモノト云フヘシ而モ我移民渡米制限ノ結果ハ日本人勞働者ヲシテ此利益ノ分配

ニ與ルコト能ハサラシムルニ到レルノミナラス既ニ當國ニ在ル幾多ノ我事業家ヲシテ今後事業ノ發展ニ伴ヒ必要ナルヘキ日本人勞働者供給ノ途ヲ失ハシメ其當然享クヘカリシ利益ノ大部分ヲ逸セシメタリ若シ夫レ鐵道勞働ノ衰微ニ到リテハ一見顧慮スルニ足ラサルカ如シト雖モ其實多數勞働者ヲシテ深ク内地ニ侵入セシムルノ機會ヲ失ハシメタルモノニシテ當ニ日本人勞働者自身ノ不幸ナルノミナラス實ニ我民族將來ノ發展ノ途ヲ遮斷シタルモノナリト云ハサルヘカラス之當管内三州ニ於テ鐵道請負業者ノ外ハ直接ニ大ナル損害ヲ受ケタルコトヲ認メサルニ拘ラス而モ日本人ノ將來ニトリ極メテ大ナル打撃ヲ與ヘタルコトヲ否ム能ハサル所以ナリトス

尙對米移民制限ノ間接ノ結果ニ就テハ種々ノ方面ヨリ之ヲ研究スルノ必要尠カラス一々茲ニ之ヲ列舉スルコトハ繁ニ堪ヘサルヲ以テ今其主ナルモノニ就テノミ簡單ニ説明ヲ試ルコトトスヘシ

一、他國勞働者ノ代用

日本人移民渡米制限ノ結果日本人事業家カ日本人勞働者ノ代リニ他國人勞働者ヲ使用スルノ傾向ヲ有セサルヤ否ヤハ正ニ研究ヲ要スヘキ一問題ナルヘシ當管内三州ニ於テハ日本人事業家ノ多數ハ殆ト勞働ヲ本位トスル小事業家ノミニシテ言語ノ異レル他國人ヲ使用スルコトハ其甚タ不便トスル所ナルノミナラス前ニ説明シ置タルカ如ク其主ナル方面ニ於ケル日本人口ハ過去三四年間

些シタル變動ナキノミナラス現ニ勞働ニ從事スル者ニ到リテハ鐵道ノ外ハ却ツテ幾分増加セルカ如キ事實アリ且日本人事業家ハ説明ヲ要スル迄モナク他人種ノ事業家ニ比シ同國人タルノ故ヲ以テ日本人勞働者ヲ得ルコト割合ニ容易ナルヲ以テ若シ必要アル時ハ從來他ノ事業家ニヨリテ使用サレツツアル日本人勞働者ヲ其事業界ヨリ吸引シ得ルノ便利アルヲ以テ特ニ不便ナル他國人ヲ使用スルノ必要ニ迫ラルルコトナシ然レトモ斯ノ如キハ單ニ既往及近キ將來ニ就テ之ヲ云フモノニシテ今後日本人事業家ノ大イニ増加シ其事業ノ發展スルニ從ヒ次第ニ困難ヲ感スルニ到ルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ而シテ右ノ結果トシテ日本人事業家中ニモ自然ニ他人種勞働者ヲ必要トスルニ到ルヘキヤ明ナリトス但シ右ハ單ニ概括の説明ヲ示スニ止ルモノニシテ若干少數例外ナキニアラス例ヘハ東部「アイダホ」州甜菜耕作ニ於テ一九一〇年中日本人農家ニ於テ既ニ數十名ノ墨國人勞働者ヲ使用シタルニ其成績良好ナリシヲ以テ本年ハ更ニ多數ノ同國人ヲ使用スヘシト云ヒ又「オレゴン」州「インデペンデンス」ニ於テハ日本人ノ「ホップ」畑ニ於テ從來約二百五十名内外ノ日本人ヲ使用シ來リシモ本年ハ右ノ内百名内外ハ白人勞働者ヲ使役スヘシト云ヘリ然レトモ右ハ主トシテ耕作上ノ都合ニ出テタルモノニシテ必スシモ移民制限ノ結果ニヨルニアラサルナリ

二、日本人勞働者ニ對スル影響

日本人渡米制限ノ爲メ勞力ノ無限ナル供給ヲ阻止セラレタル爲在來ノ日本人勞働者カ事業家ノ弱味ニ乘シ次第ニ驕慢ノ風ヲ生シ勞働者ノ德義ヲ無視スルカ如キコトアラサルヤハ之亦注意ヲ要スル所ナルカ當管内ニ於テハ既往ハ勿論現在ニ於テモ日本人勞働者ニ對シ特ニ惡聲ヲ發スル者ヲ聞カサルノミナラス現ニ日本人勞働者ノ減少シツツアル鐵道勞働者ノ如キハ現今就働シツツアル者ハ多クハ多年ノ經驗者ニシテ新來移民ノ使役セラレツツアリタル往時ニ比シ却ツテ會社ヨリ多大ナル歡迎ヲ受ケ技能ノ優秀ナル者ハ「ファーマン」即チ組頭ニ採用セラレ其配下ニ多數伊太利人若クハ希臘人ヲ使役スル者尠カラス勿論多數日本人勞働者中若干不良ノ徒ナキニアラサルモ斯ノ如キハ何レノ國人ニ於テモ免レ難キ所ニシテ移民制限トハ何等ノ特殊關係アルコトナシ尙當館管内ニ於テ過去兩三年以來日本人在留者カ漸次定着の傾向ヲ生シ勞働者ヨリ轉シテ或ハ商人トナリ或ハ農業者トナリ自ラ獨立ノ事業ヲ經營セントスル者次第ニ多ク或ハ土地ヲ買入レ或ハ長期ノ借地ヲナシ妻子ヲ迎ヘテ永遠ノ計畫ヲ立ツル者頗ル多シ蓋シ移民制限實行ノ結果現ニ米國ニ在留スル者ノ本國ニ在ル同胞ニ比シ甚タ幸福ナル地位ニアルコトヲ了解シ容易ニ本邦ニ歸還スルノ非ナルコトヲ覺ルニ到リタルモ亦一原因タルニ相違ナシト雖モ而モ其主タル原因ハ在米日本

人發展ニ伴フ自然ノ結果ニシテ之ヲ以テ移民渡米制限ノ結果トノミ見ルハ極メテ非ナリ

第五、一般の觀察

以上我在留民ノ實狀ト對米移民制限ノ影響トニ付略々其大要ヲ悉シタリ之ニヨリテ移民制限ノ直接ノ影響力廣ク想像セラレタルカ如ク大ナルモノニ非サルコト及當國經濟上竝ニ其他種々ノ有利ナル原因ノ爲吾一般在留民カ存外繁榮シツツアルコトヲ知り同時ニ彼等カ今後受クヘキ間接ノ影響カ既往ニ於テ直接ノ損害ノ僅少ナルニ反シ其極メテ廣大ナルモノアルヘキヲ見ルヲ得ヘシ然レトモ之ヲ以テ在留日本人ノ將來ヲ極端ニ悲觀スルハ大ニ不可ナルコトヲ斷セサルヘカラス蓋シ本邦人移民渡米ノ制限ハ出稼又ハ勞働時代ヨリ起業植民時代ニ遷ル過渡期中斷シタルモノニシテ其發展ノ速度ヲ妨ケ正ニ享クヘカリシ利益ノ多クヲ阻止シタルコトハ勿論ナルモ而モ彼等發達ノ大勢ハ之カ爲ニ遮斷セラルヘキモノニアラス若シ或ハ日本人ノ多數カ向上的の精神ヲ有セス勞働者ノ狀態ヲ以テ満足スルモノナランニハ移民制限ニヨル在留者ノ數ノ減少ハ直チニ以テ日本人ノ勢力ノ退縮ヲ來シ其將來ニ對シ大ニ悲觀セサル能ハサルモ今ヤ彼等ノ多數ハ漸次勞働本位ノ舊態ヲ脱シテ起業的獨立時代ニ入り所謂出稼ヨリ進テ土着的の又ハ半土着的の狀態ニ變遷シツツアルモノニシテ在留者ノ多少ハ必スシモ勢力ノ大小ヲ示スモノニアラス若シ帝國政府ノ方針カ永ク現在ノ移

民政策ヲ維持シ太平洋沿岸ニ一人ノ日本人勞働者ヲ渡航セシメストスルモ在米日本人ノ將來ハ尙極メテ有望ナルモノニシテ之ヲ極端ニ悲觀スルノ理由ハ毫モアラサルヘシ現ニ支那人カ當國ヘノ移入ヲ禁止セラレタル以來茲ニ約二十年現今在留セル者ヲ以テ之ヲ其往時ニ比較スルニ其數十分ノ一ニタモ及ハサルヘシト雖モ而モ彼等ハ到ル所ニ於テ雄大ナル勢力ヲ維持シ牢乎拔クヘカラサルノ實力ヲ示シツツアル所以ノモノハ獨立ノ事業家ヲ以テ其在留社會ヲ形成シツツアルノ故ニシテ僅少ナル貯金ニ満足スル勞働者ノ社會ト其選ヲ異ニセリ世人動モスレハ移民渡米制限ノ事實ヲ以テ極端ニ日本人ノ前途ヲ悲觀シ在米日本人社會ノ早晚絶滅スヘキコトヲ豫言スルカ如キモノアルモ畢竟机上ノ空論ニシテ在米日本人ノ向上の實狀ヲ洞察スル能ハサルノ輩ナリト云ハサルヘカラス

第四節 中西部及南部地方ノ日本移民ニ及ホセル紳士協約ノ影響

紳士協約ニヨル移民制限カ中西部地方ノ日本移民ニ及ホセル影響ニ關シ一九一一年九月三十日附林臨時外務大臣宛在「シカゴ」山崎領事ノ報告スル所大要左ノ通

當地方ハ太平洋沿岸ト異リ本邦在留民ノ數モ比較的ニ少ク且相當ノ資金ヲ投シ商業農業若クハ

其他ノ事業ニ從事セルモノ多カラス又西部地方ニアリテハ飲食店書籍店雜貨店食料品店湯屋桂庵下宿屋等ノ本邦人相手ノ業務ヲ營メルモノ尠カラサルモ當地方ニ於テハ本邦人ノミヲ相手トスル業務ヲ營メル者殆ト無ク之ヲ要スルニ太平洋沿岸ト大イニ其事情ヲ異ニシ渡米移民制限ハ當地方在留邦人發展ニ對シテハ西部地方ノ如ク大ナル影響ヲ與ヘ居ラサルモノノ如シ左ニ當館管内ニ於テ本邦人ノ經營セル各事業ノ現況ヲ述ヘ併セテ渡米移民ノ制限カ直接之等事業ノ上ニ及ホセル影響ノ程度ヲ記述スヘシ

第一、各種卸商

目下當地方ニ於テ陶器羽二重刺繡製茶雜貨等ノ輸入卸賣ヲ營メルモノハ各店トモ資力ノ許ス限リ業務ヲ擴張シ居ルノミナラス近年當國ニ於ケル日本品ノ賣行涉々シカラサルヨリ一二ノ例外ヲ除キ其事業ヲ縮少セサル迄モ此際敢テ之カ擴張ヲ企ツルモノナク且前記卸商ニアリテハ其店員ハ大抵英語ヲ解シ當國ノ事情ニ通スルヲ以テ店務ノ都合上一時多數ノ店員ヲ要スルカ如キ場合例ヘハ「クリスマス」前等業務多忙ノ際ニハ臨時米人ヲ雇入レ其手不足ヲ補ヒ來レルヲ以テ必スシモ本邦人呼寄ノ必要ナク從ツテ對米移民ノ制限ハ卸商ニ對シテハ何等苦痛ヲ與ヘ居ラサルモノノ如シ